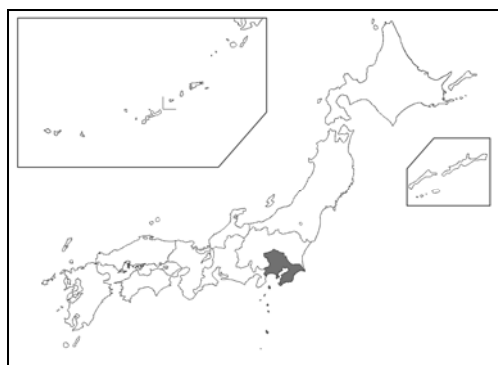


(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)

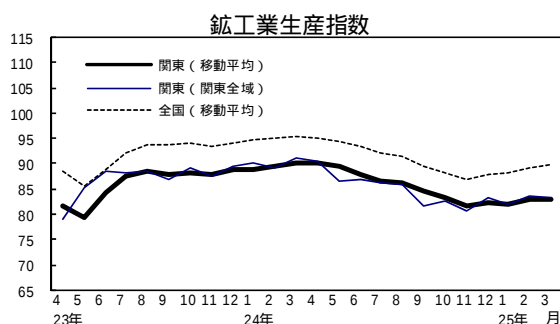
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 25 年 2 月)	今回 (平成 25 年 5 月)	
景況判断	持ち直しの動き	緩やかに持ち直し	↑
個人消費	底堅く推移	持ち直し	↑
住宅建設	大幅に増加	増加	↓
雇用情勢	緩やかな持ち直しに足踏み	改善の動き	↑

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。(関東全域)

1～3月期には、輸送機械は、震災復興と輸出向けに普通トラックの需要が伸びたこと、普通乗用車の米国向け輸出が堅調であったことから増加した。一般機械は、半導体製造装置の生産の落ち込みが主因となり減少した。電気機械は、主に電力会社と鉄道会社向けに開閉制御装置が生産増となり増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10～12 月期	1～3 月期	1月	2月	3月
輸送機械	15.2	▲3.2	4.8	2.1	▲0.3	0.3
化学	13.4	1.6	-	▲2.4	1.5	-
一般機械	13.2	▲8.1	▲3.4	▲9.4	3.0	▲1.9
電気機械	7.8	▲5.2	7.2	▲5.1	6.3	1.1
食料品・たばこ	7.1	1.0	-	2.0	1.8	-
鉱工業	100.0	▲2.8	1.0	▲1.6	1.7	▲0.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 1～3月期、3月は速報値。化学、食料品・たばこは、速報値では公表されていない。

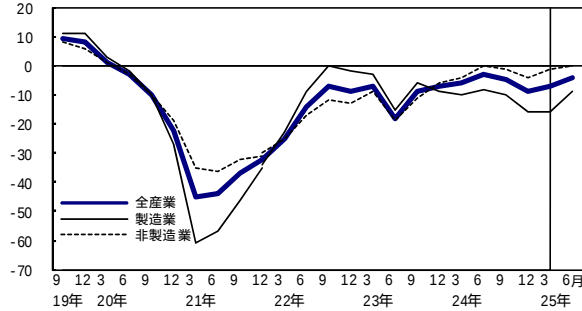
(備考) 1. 17年=100、季節調整値。関東の最新月は速報値。

2. 全国及び関東の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

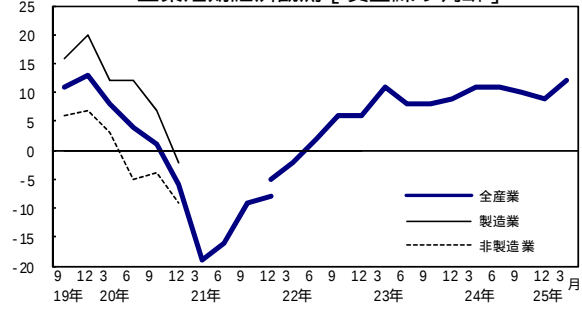
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



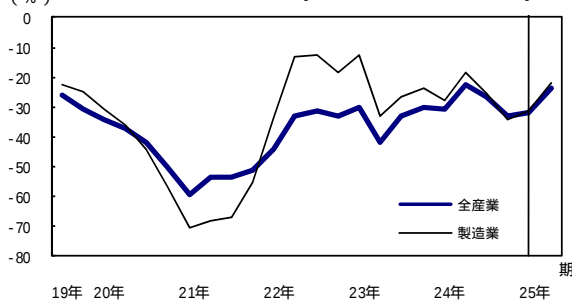
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。25年6月は予測。
21年12月は新・旧基準を併記。
関東全域(新潟県を含む)。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月は新・旧基準を併記。
日本銀行横浜支店管内。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断、関東全域]



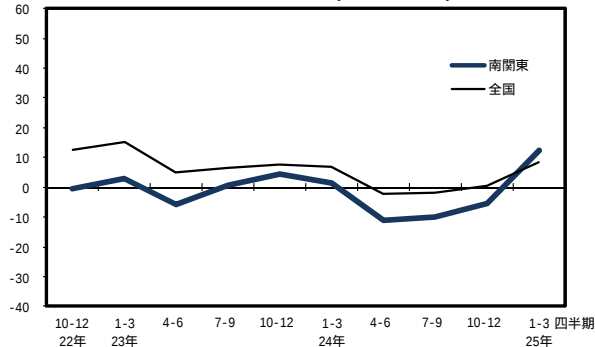
(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。25年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「少しずつではあるが、為替や株価上昇の影響により、特に自動車メーカーなどからの仕事の依頼が多くなってきている(建設業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。

(%) 民間非居住用建設工事費(前年同期比)の推移



企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	24年度実績見込み	25年度計画
全産業	6.4(▲6.6)	8.9
製造業	9.7(▲5.6)	6.7
非製造業	▲0.4(▲8.8)	14.0

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

調査対象は神奈川県。

(4) 南関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

地域別消費総合指数（RDEI（消費））

1月は前月比0.9%増、2月は同1.2%増、3月は同0.2%減となった。

大型小売店販売額

百貨店は、1月は、強い寒気と大雪の影響により「紳士服・洋品」、「婦人服・洋品」等が低調だったことから前年を下回った。2月は、高額商材（時計、旅行、寝具等）が好調であった他、バレンタイン商戦が活況であったことにより前年を上回った。3月は、好天に恵まれ、高級時計、婦人・紳士衣料が好調だったことから前年を上回った。

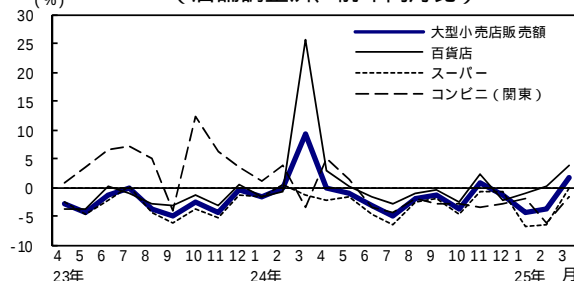
スーパーは、1月、2月と2ヶ月連続で飲料品と衣料品が不調であったことにより、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査（4月）[家計動向関連（現状）]

南関東地域の家計動向関連DIは、57.2となり前月より1.1ポイント低下した。

「客の消費の様子に変化がみられない（遊園地）」など、「悪くなっている」とする回答が増加した。

大型小売店販売額等
(店舗調整済、前年同月比)

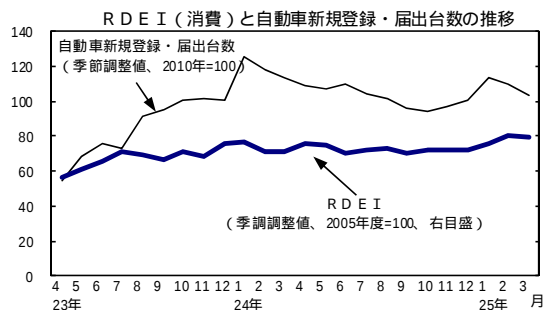


	25年1-3月	25年1月	2月	3月
RDEI（消費*1）	1.6	0.9	1.2	▲0.2
大型小売店(*2)	▲2.0	▲4.3	▲3.7	1.8
百貨店(*2)	1.1	▲1.1	0.2	4.0
スーパー(*2)	▲4.5	▲6.8	▲6.5	▲0.1
コンビニ(*2)	▲3.1	▲2.0	▲6.1	▲1.5
乗用車(*3)	▲9.3	▲9.2	▲7.9	▲10.4
(季節調整値)(*3)	11.7	12.3	▲2.6	▲6.4

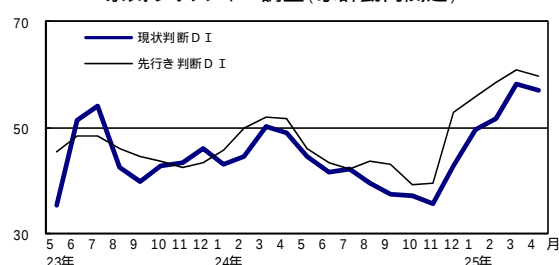
(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整済、前年同期(月)比(%)、コンビニは関東全域

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



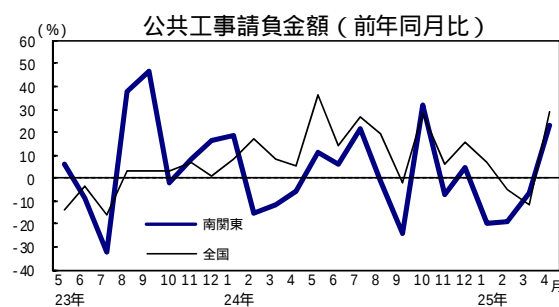
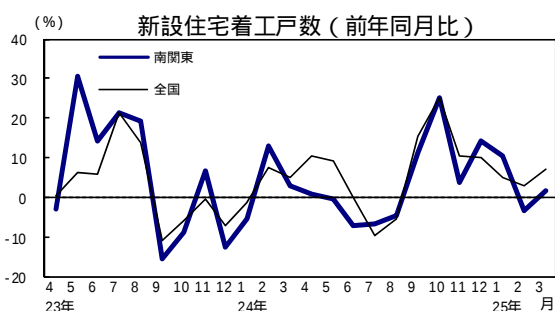
景気ウォッチャー調査(家計動向関連)



(2) 住宅建設は増加している。

貸家が前年を下回ったものの、持家、分譲が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は24年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

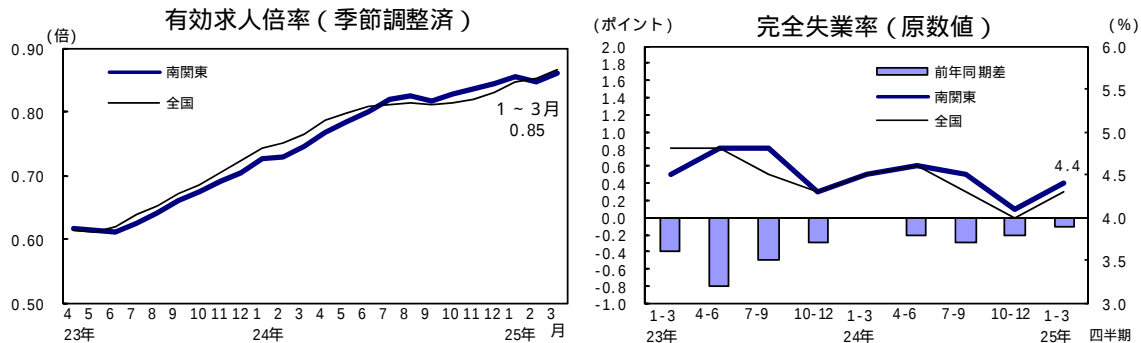


3. 雇用情勢等

(1) 雇用増勢は改善の動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期とほぼ同水準となっている。



景気ウォッチャー調査（4月）[雇用関連（現状）]

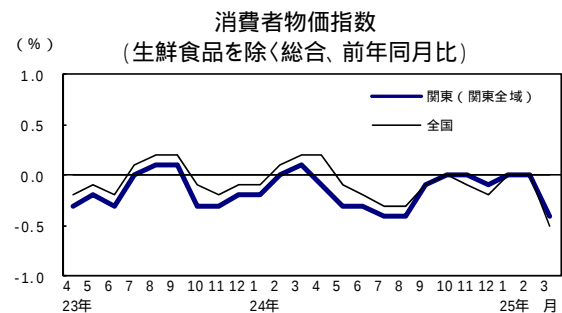
「求人数が若干増加している。採用形態も期間限定の短期派遣というよりは長期、もしくは紹介予定派遣が多くなってきている（人材派遣会社）」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は下落に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	24年4-6月	7-9月	10-12月	25年1-3月	25年4月
倒産件数	1,068	947	929	933	279
(前年比)	4.2	▲7.4	▲9.5	▲14.8	▲19.4
負債総額	2,293	3,716	2,630	2,042	684
(前年比)	25.8	1.3	21.5	▲78.3	38.8



○ 景気ウォッチャー調査（4月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- 国内団体旅行の見積が増えている。以前よりも料金交渉が減ってきており、ある程度、旅行費用が高くても受注できるようになってきた（旅行代理店）

<先行き>

- 明らかに投資マインドは良くなっており、経済、財政政策はひとまず成功といえる。実のある次の一手に期待する声が多い（金融業）

